

平成29年度埼玉県クイーンズランド州高校生短期留学プログラム 奨学生レポート

今回、埼玉県親善大使としてオーストラリアのマウンテンクreek高校に2週間派遣されました、関根えまんです。

幼い頃、私はテレビや本で発展途上国に暮らす小さな子供たちが学校に通いたくても通えないということを知りました。私よりも小さな子供たちが、毎日大人と同じように働いている。私とは全く違った生活を送っていると知り、ショックを受けました。そして、そんな子供達のために学校を作りたい、いつしかそう思うようになりました。

高校生になり、自分の夢へアクションを起こそうと思い、このプログラムに応募しました。「学校をつくる」という夢への実現のために今の自分に必要不可欠なものは「英語」だと考え、1度日本を離れ今の自分の英語が本場でどこまで通用するのか試してみたかったです。

このレポートでは私が2週間を通して学んだことやオーストラリアについてお話ししたいと思います。



(1) マウンテンクreekでの暮らし

オーストラリアまでは飛行機で約11時間30分、空港から私の滞在したマウンテンクreekまでは約1時間30分かかりました。家からビーチまでがとても近く、車で約15分の距離にありました。マウンテンクreekは山を登ったところにあり、自然に囲まれていて、毎朝鳥のきれいな鳴き声がよく聞こえました。日本にあるような高いビルがないため、夜は星がとてもきれいでした。

(2) マウンテンクreek高校での学び



マウンテンクreek高校での生活は朝の7時30分から始まります。1つの授業は60分間で、1日に4つの授業を受けます。

毎週月曜日は1時間目にホームルームを行います。そこでは自分の進路に向けた講義を受けたり、話し合ったりします。この講義は日本でいう高校1年生から受けます。早いうちから自分の将来について考えられるようになっているそうです。



また、毎日 2 時間目が終了すると、モーニングティーという時間が設けられていて、約 30 分間の休憩があります。お昼ご飯を食べたり、お菓子を食べてりしながらお友達と集まっておしゃべりをします。

マウンテンクreek高校で私は色々な授業に参加させていただきましたが、一番印象に残ったのは理科の授業です。日本とは違って理科もたくさんの種類ごとに分かれていました。

左の写真はサイエンスの授業風景です。この授業では犯罪事件を模倣して、どうしたら犯人を突き止めることができるかを自分が警察官、鑑識になりきって実験しました。



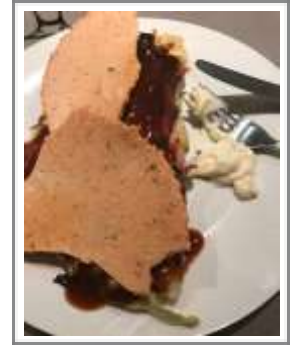
これはダンスの授業風景の写真です。この回のテーマはオーストラリアの伝統的なダンスを学ぼうということだったので、オーストラリアの先住民族であるアボリジニに受け継がれる踊りを鑑賞しました。又、先住民族の方々に先生を迎えて、踊りも教わりました。今まで見たことがなかったので、とても貴重な経験になりました。

(3) オーストラリアでの国際交流

以前からオーストラリアでは日本食が人気だということを聞いていましたが、行ってみると予想よりはるかに多いお寿司屋さんの数に驚きました。ホストファミリーに聞いたところ、オーストラリアでは日本食がとてもブームで、特に健康的かつヘルシーで値段があまり高くないお寿司が人気だそうです。とても美味しかったです。日本からきた私は少し違和感を覚えました。オーストラリアでお寿司と呼ばれているものは、日本で言う「のり巻き」で、中身が日本よりバリエーションが多く斬新なものでした。

又、ブリスベンに行った際にラーメンを食べさせてもらいました。ブリスベンには中華街や日本食のお店が連なる通りもありました。どの日本食もとても本格的で美味しかったです。

オーストラリアでは「フィッシュアンドチップス」がとても有名だということだったので、ホストファミリーに食べさせてもらいました。オーストラリア人はお米をあまり食べないそうで、その代わりにパンやポテトフライをどの家庭でもたくさん食べると聞きました。私の滞在したマウンテンクreekは親鮮な魚が多く出回っているため、シーフードも人気だと聞きました。



ホストファミリーがお好み焼きが好きだと聞いていたので、作ってみました。ホストマザーとファザーは食べたことがなかったらしく、とても喜んで食べてくれました。

オーストラリアの方々はとても優しく、街を歩いていると日本人ということでも話しかけてくれる方がいました。学校でも、「どこから来たの?」とたくさん声をかけてもらいました。「日本から来たよ!」と答えると、「日本の何県から来たの?」と必ず言ってくれて、日本に関心を持っていてくれるんだな、と嬉しく思いました。「埼玉県から来たよ!」と言うと、埼玉県の場所を示してくれたり、「知っているよ」「行ったことあるよ」と言ってくれる子もいて感動しました。

埼玉県は2019年に熊谷市でラグビーワールドカップを開催することを現地の子にその紹介をすると、とても興味を持ってくれました。オーストラリアはラグビーがメジャーなスポーツなので埼玉県をより知ってもらえる良い機会となりました。



マウンテンクreek高校で日本語を学ぶ生徒達と、ブリスベンに課外授業に出かけました。この写真はその際に立ち寄った日本庭園で鑑賞した日本武道です。この日本武道はオーストラリアの方が先生として、現地の方々に日本武道を紹介していました。日本人の私ですら知らなかった技や組み手があって驚きました。

右の写真は日本人の書道家の先生に書道を習っている様子です。生徒達は事前にインターネットや本などで、自分の書きたい漢字を調べてきていて、それを書いていました。改めて漢字は世界共通だと感じました。日本を離れて改めて深く日本について知る良い機会になりました。



(4) 最後に

私はオーストラリアに行って、気がついたことが2つあります。

1つ目は自分の英語についてです。私の英語が本場でどれくらい通用するのかを試してみたいとずっと思っていたのですが、いざオーストラリアで話してみると聞き返されることが多く、自分の英語はまだまだだと感じました。自分を見つめなおす良いきっかけを与えていただけたと思います。もっともっと勉強して、絶対にまたオーストラリアに行って成長した自分の英語を試したいという目標ができました。

2つ目は日本についてです。オーストラリアに行き、今まで自分が見てきた世界を初めてもっと広い目で見ることができるようになったと思います。それは、一度日本を離れて、全く知らない土地、自分の母国語が通じないオーストラリアという場所に行くことができたからだだと思います。オーストラリアは日本と文化も食も考え方も違っていて、着いてから、戸惑うことも多くありました。でも、そんなとき改めて日本の良さを感じることができました。

また、オーストラリアの方々が考える日本を知ることで、自分の知らなかった日本が見えてきた気がします。私は生まれてから16年間埼玉県に住んできましたが、今回の派遣を通して埼玉県に何度も訪れたことがあるというオーストラリアの方々とたくさん出会いました。そして、その方々は決まって口を揃えて、「埼玉県って本当にいい所だよ」と言ってくれました。

私はそんな埼玉県の親善大使になることができ、心から嬉しく思います。又、埼玉県で育つことができ本当に誇りに思います。

そして、この経験を通して、学校に通いたくても通えない子供たちのために学校づくりに携わる、という自分の夢に一步近づけたと思います。この夢へより近づけるように、実現できるように、これからも努力していきたいと思います。

最後に、このような素晴らしい経験をする機会を作っていただき本当にありがとうございました。この恩返しができるように、これからも埼玉県に貢献するべく頑張っていきたいです。